

2022年度 大阪電気通信大学高等学校 自己評価・学校関係者評価 報告書

1 めざす学校像

(1) 教育目標

- 一. すべての生徒に確かな知識を与えよう
- 一. 人間の生き方を教える教育をしよう
- 一. 心身ともに健康な生徒を育てよう

(2) 各科・コースの特長 (2022年度のコース)

普通科

進学総合コース

高大連携プログラムを通して、自分の適性を探究する。大阪電気通信大学進学を基盤に、理系・文系の学びを通して、幅広い進路選択を行う。

アドバンスコース (選抜)

2学年より難関私立大学合格のためにアドバンスコースを1クラス編成する。普通科のカリキュラムをベースとして、志望大学にあわせた学力を身につける。

メディア情報コース

普通科のカリキュラムをベースとして、画像処理、CG、サウンド、Web等のメディアに関する様々な表現方法を学ぶ。大阪電気通信大学総合情報学部ゲーム&メディア学科をはじめ、文系・理系を問わない多様な進路を目指す。

健康スポーツコース

学習と部活動を両立させ、スポーツを通して健康科学を学ぶ。大阪電気通信大学健康スポーツ科学科をはじめ、体育・スポーツ系、医療・福祉系などへの進学を目指す。

工学科

工学理数コース (1年生) / 理数コース (2年生・3年生) (特進)

工学科専門科目を通して、思考力と実践力を養い、電子情報技術を習得する。数学、英語、理科を中心に学力を強化し、国公立大学や難関私立大学などへの進学を目指す。

工学連携コース(1年次)

共通科目を1年間学ぶ。大阪電気通信大学見学会やコース説明会などを通じ、2学年からのコース選択にそなえる。

医療電子コース

医療と工学を学ぶ。大阪電気通信大学へ進学することで、臨床工学技士、理学療法士を目指すことができる。

デジタルゲーム開発コース

C言語プログラミングにてゲームプログラミングの基礎と応用を学び、ゲーム開発エンジンを用いて3Dゲームを開発する。大阪電気通信大学デジタルゲーム学科等への進学を目指す。

ロボット機械コース

2足歩行ロボットの製作を通じて、機械、センサー、電子回路、プログラミングの知識と技術を習得し、大阪電気通信大学電子機械工学科、機械工学科、環境科学科等への進学を目指す。

IoT情報通信コース

ワンボードマイコンを用いた実習を通してIoTの基礎と活用を習得し、大阪電気通信大学電気電子工学科、情報工学科、通信工学科、情報学科等への進学を目指す。

2 中長期的目標

重点方針 「生徒・保護者に選ばれるための、学力向上と一人ひとりの能力を伸ばす高校づくり」

- 大阪電気通信大学との連携
- 生徒の学力向上
- 生徒の人間力向上
- 授業の質の向上
- ICTを活用した教育の推進
- 女子受験生からも選ばれる学校づくり
- 教育の質向上に繋がるPDCAサイクルの確立
- 離学者の低減
- 在籍者の確保

	重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
授業を大切にし、 確かな知識を与える	●魅力ある授業を展開し、学力向上と離学率の低減を目指す。	ア・授業アンケートを活用し、授業の質を高めていく。 イ・生徒との面談、家庭との連絡を密にする。	ア・授業アンケートの「わかりやすく、理解しやすい」「総合的な評価」各項目のパーセンテージの上昇。 (2021 年度: 「わかりやすく、理解しやすい」 強く思う 45% そう思う 30% 「総合的な評価」 強く思う 44% そう思う 31%) イ・離学率 3%未満	ア・2022 年度授業アンケート結果 「わかりやすく、理解しやすい」 強く思う 42%(-3%) そう思う 30%(±0) (×) 「総合的な評価」 強く思う 42%(-2%) そう思う 30% (-1%) (×) いずれも 2021 年度を下回る結果となった。 イ・離学率 5.1% (×) 単年度での離学率だけでなく、3 年間の離学率減少も目指していく。
人間の生き方を教え、 心身ともに健康な生徒を育てる	●基本的な生活習慣を確立させる指導を行なう。 ●マナーや礼儀の指導を行なう。 ●非行を未然に防止する。 ●課外活動等を通じて学校の活性化を図る。	ア・基本的な生活習慣を確立させる。 イ・交通ルールを守らせ、自分のみならず他人の生命をも尊重させる。 ウ・いじめを防止する。 エ・課外活動を奨励する。 オ・資格検定取得や部活動での活躍を促す。	ア・皆勤賞数を全体の 20% (卒業まで各授業の欠課・遅刻・早退もない皆出席) ・遅刻者数は生徒一人年間 1 回 イ・交通事故 0 件 ウ・いじめ指導処分件数 0 件 エ・部活動部員数が全生徒数の 3 分の 1 オ・生徒活動奨励賞 60 件	ア・412 名中 54 名 (13%) (×) ・遅刻者数のべ 2471 名 (×) イ・交通事故 0 件 (○) ウ・いじめ事案 0 件 (○) エ・在学者数 1245 名中 507 名 (○) オ・生徒活動奨励賞 100 件 (○)
生徒一人ひとりに適した 進路を実現する	●生徒に応じた学習支援を行い、学習の成果を実感させ、進路相談、キャリア教育を行いながら、進路について目標を立て実現に向かう力を育成する。	ア・個々の希望進路に応じたきめ細かい進路指導を行い、希望進路の実現をさせる。また高い進学率を達成する。 イ・「総合的な探求の時間」を活用したキャリア教育(オープンキャンパスへの参加、資格取得の奨励、志望動機の確立等)の企画実施。併設の「大阪電気通信大学」の体験授業、体験実習、その他文系大学の体験授業を行い、興味、関心、適性の模索を行う。	ア・進路決定率 95%以上 ・4 年制大学進学率 70%以上 ・進路説明会各学年 1 回以上の実施 ・外部模試(年 3 回)実施 イ・大阪電気通信大学、その他文系大学の体験授業を実施 ・大阪電気通信大学の体験実習を実施	ア・進路決定率 98.3%(○) ・4 年制大学進学率 73.3%(○) ・進路説明会(各学年 1 回)(○) 大学/専門学校説明会を実施 ・外部模試(年 3 回)実施(○) イ・体験授業の実施(○) ・体験実習の実施(○)

<p>志願者にとって魅力的な学校をめざす</p>	<p>●事業計画および活動計画に基づき、十分な入学者数を確保する。</p>	<p>ア・入学者を確保する。 イ・女子生徒の割合（2021年度2.5%）を増やすべく、魅力ある学校づくりを目指す。</p>	<p>ア・入学者数 400 名 イ・女子生徒の割合 3%（2026年度には 5.0%）</p>	<p>ア・入学者数 349 名（×） イ・女子生徒の割合 4.0%（○） ※2023年度入試における入学者では 14 名/349 名。その結果全校では 4.1% 49 名/1182 名 となった。</p>
<p>安心安全な教育環境の整備と持続可能な学校運営をめざす</p>	<p>●事業計画および活動計画に基づき、教育の充実や生徒募集に資する環境の整備を進める。</p> <p>●業務の効率化を進め、少子化が進展する中でも持続可能な学校運営に努める。</p>	<p>ア・40年以上前に設置したバスケットゴールの更新（北九州市で同型のバスケットゴールによる落下事故が発生したことを受け、対応を決定）。</p> <p>イ・A号館 1F 女子トイレ、C号館 5F 男子トイレの改修。</p> <p>ウ・化学・物理実験室の改修。</p> <p>エ・慢性的な教室不足の解消。</p> <p>オ・出張旅費精算、経費精算の電子化に着手する。</p>	<p>ア・更新実施</p> <p>イ・改修実施</p> <p>ウ・改修実施</p> <p>エ・新たな教室を確保</p> <p>オ・導入するシステムの選定を行い、次年度 2023 年度からは電子申請に移行</p>	<p>ア・安全性が確保された。（○） ゴール更新と同時に、来校者へのアピールポイントとして、体育館アリーナのセンターサークルに学園シンボルマークを配置した。</p> <p>イ・今回の工事により、生徒が使用する主要なトイレの改修を完了した。（○） また、1F 女子トイレに更衣ブースを設置し、女子生徒の利便性向上を図った。</p> <p>ウ・内装工事、実験台等の設備更新を実施した。（○） 実験台は、物理、化学両方の実験に対応できる仕様とし、実験室の稼働率向上を図った。</p> <p>エ・新たな予備教室を確保すると同時に、部署の連携強化を狙い部署の校内配置変更を実施した。（○）</p> <p>オ・紙ベースで行っていた旅費精算、経費稟議の電子化について、移行準備を完了。（△）</p>

4 学校関係者評価委員会（議事録）

開催日時: 2023年10月7日（土）13:30～15:00

開催場所: 大阪電気通信大学高等学校 第1応接室

出席者: (学外) 中橋委員 白嵯委員 北田委員 (学内) 内田委員 松原委員 白石委員 唐原委員 岡村委員 欠席者: (学内) 福島委員

「2022年度の取り組み内容および自己評価」および各種アンケート結果（教職員・保護者・生徒・授業アンケート）等をもとに、学校関係者評価委員会の学外委員（地域代表、保護者代表、卒業生代表）から以下の「学校関係者評価委員会での意見」を頂戴した。

学校評価アンケート・生徒アンケート・保護者アンケートの分析	学校関係者評価委員会での意見
<p>【生徒】 (2022年度全学年対象授業アンケート・2022年11月実施分) (2022年度卒業生対象生徒アンケート・2023年1月実施分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「事務職員が親切に対応してくれた」「クラスは居心地が良かった」「面接や小論文・作文の指導が丁寧に行われていた」等の項目の評価が高い。 ・授業では「体育」「地歴・公民」の授業が充実していたとする生徒が多い。 ・「目標をもって充実した高校生活を送れた」の評価が低調であり、生徒一人ひとりの目標設定をすすめていく必要があるのではないかと。 ・携帯電話のルール等について見直す声が見られる。タブレット端末やPCなどのルールとともに、検討が必要であると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(町会としては) 本校は地域唯一の高校でありステークホルダーの一員であるという意識を持っている。技術系の高校や大学は企業からも望まれている。先生方にはプライドを持って生徒たちを指導していただきたい。 ・生徒に学力をつけ、併設大学に進学する生徒たちがそこで活躍できるようにしてほしい。数学力が十分でないために苦勞する場合もあるので、生徒たちには特に数学の力をつけてもらいたい。高校、大学ともにさらに評判が上がってほしい。 ・(同窓会長が在籍していた当時も) 本校ではいじめ等の事案がほとんどなかった。データによればそれが継承されているようで良い。校内では対策として生徒にそういった問題がないかアンケート調査が実施され、防止する取り組みがあることが分かった。一方世間ではネット上などで誹謗中傷などが絶えないため、校内でもそういった問題が隠蔽されたり潜在化したりしない工夫が必要であろう。
<p>【保護者】 (2022年度卒業生保護者対象アンケート・2023年1月実施分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年と変わらず、「電通高校に通わせて良かった」の項目は当年度においても高い評価であった。「世間の評価より良い学校である」との声も頂戴した。 ・一部の教員の対応について、保護者からの厳しい意見が散見される。生徒に対する言葉づかいなどについても細心の注意が必要であり、研修等について充実させる必要がある。 ・生徒以上に、保護者の方が学校行事に関して評価が低い。昔から変えていない行事もあり、他校の成功事例等の分析も必要かもしれない。特に当年度卒業生は新型コロナウイルスの影響をもちに受けた学年であり、各行事に様々な影響があったため、子どもにいろいろな体験をさせてやれなかったという思いもあったのだろうと推察する。 ・校舎の老朽化が進んでおり、設備面で改善を求める声が見られる。新校舎を直ちに建設することは難しいが、改修等は進めており今後も計画的に教育環境を整備していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校は良い学校だと思う。立地も良いし、スポーツにも力をいれていて当年度、前年度は高校野球でも大阪でベスト8に入った。学校の認知度も上がっている。自分の子どもを通わせてよかったと思う。 ・本校は後援会員（保護者）と教職員の距離が近いことが良い点である。しかしながら近年、教職員の後援会行事への参加者が減少傾向にある。いろいろ事情もあると思うが、教職員に数多く参加してもらいたい。また教職員が参加しやすいよう日程などについて後援会側も考えていきたい。 ・私学保護連の活動に参加すると他校の様子が分かる。それらを参考にしつつ、後援会としては本校の学校行事などにもより良い形で関わってほしい。また年々学校行事がブラッシュアップされていけば良いと思う。 ・地域住民が高校の行事に参加する機会がなかなかない。地域住民も機会があれば行事に参加させていただきたい。地域住民としても電通高校ともっと密な関係になれば良いと思う。
<p>【教職員】 (2022年度学校評価アンケート・2023年3月実施分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した教育が進んだことで、「生徒の情報活用能力の育成」の項目の自己評価が高まっている。また研修や生徒の生活指導に対する体制に関する項目についても自己評価が高まっている。 ・離学率が当年度は増加したことから、「きめ細かい生徒指導」の自己評価が低下している。コロナ禍や単位制高校の増加など様々なことが要因として考えられるが、例年に比して高く次年度においてはこの比率を低下させたい。 ・授業公開、会議の有効性、地域交流、環境問題意識向上、食育、ボランティア活動に関する自己評価が低い。 ・教員間の信頼関係のさらなる構築が必要である。個人プレーではなくチームとして生徒、学校のために力を発揮していける学校にしなければならない。 ・生徒を育てるとともに教員の質の向上が求められている。教員の裁量を尊重する一方で、基本的な方向性については統一することが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・併設大学にはJIAMS（先端マルチメディア合同研究所）という組織があり、以前コロナ禍の中でプロのスタッフが卒業式などを中継していた。保護者の立場としては、(ICTを含め) こういった高校と大学の連携の強みを今後も生かしてもらいたいと考える。 ・例年よりも高い離学率となっており、次年度は改善が望まれる。 ・自己評価により、評価が低い項目について教職員が認識している。高みを目指してもらいたい。地域交流、ボランティアについては次年度に計画があることを理解した。 ・同窓会長が本校に在籍していた50年ほど前には、生徒から見て協調性のない教員が校内にいたがそれではいけない。教職員が一体となって学校を良くしていこうという気持ちを持つことが重要ではないか。 ・近隣住民からの苦情もなく、教員がよく生徒指導をしていると思う。教員はやりがいあっても大変な仕事なのでメンタル面を大事にもらいたい。 ・分析の着眼点が良い。私立高校は独自性もあり、ワンチームでことに当たることができると思う。その強みをぜひ生かしてもらいたい。